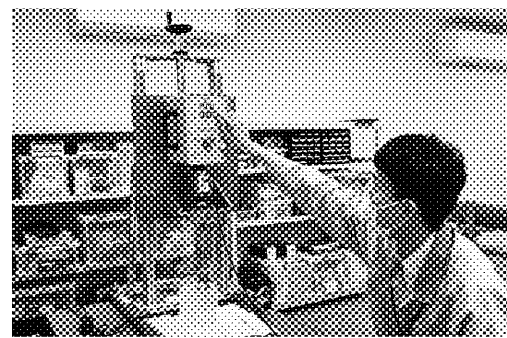


## サノヤスHD、イノベ推進

サノヤスホールディングス(HD)は2030年度までの重点施策に位置付けるイノベーション推進に向け、組織体制の構築を急いでいる。このほど技術開発や人材育成強化を目的に、大阪市内の技術支援拠点(イノベーション推進委員会)も設置済み。課題である新製品開発や他社との協業による新ビジネス創出に本腰を入れる。30年度は21年に祖業の造船事業を売却してから10周年を迎える節目。新たな飛躍に向けた基盤づくりがカギを握る。(大阪・池知恵)

「自社だけでなく、従来の拠点から延べを作る夢を持つ。床面積を約1.7倍にうな場所にした」。拡大、構造解析や流体解析などを行える製品リニューアルした技術支援拠点「ものづくりラボ」(大阪市住之江区)の開所式で、北達や、部品を短期間で試作するための3次元

「(3D)プリンターなどを活用する。これまでは手狭で作業範囲が限られていたが、スペースを広げ、実験機などを備えた開発や試作、解析が行えるようになった。」  
 サノヤスHDは乳化工攪拌装置やショットブラスト、工用エレベーター、制御盤などを手がける中堅・中小企業を束ねる。現場社員の高齢化や技術継承、人材不足などは慢性的な課題だ。「新製品開発に着手しても、本業が忙しくなれば手が止まってしまう」(サノヤステクノサポートの花田恵二社長)ため、各社が新規事業を立ち上げることは難しいのが現状だ。そこで要となるのがグループ会社への技術支援を手がける子会社のサノヤステクノサポート(Sノサポート)だ。TS、大阪市住之江区)元パナソニックHD社員でシニア転職してきた人材



ものづくりラボに設備した攪拌装置の試験機。流体の性質に合わせて最適なトルク、回転数を検証できる。

## 技術支援を重視、拠点拡張

夕などを活用し、今後製品の共同開発や展開も視野に入れる。4月には社長直轄で、事業会社のメンバーを含むイノベーション推進委員会が立ち上がった。月に1度情報交換を行い新規事業案件の具体化や実行力の強化につなげる狙いだ。

## グループ連携強め新事業

などが在籍する。製品設計や生産技術などのプロ人材を抱え、個社では難しい要素技術の開発や解析を担ってきた。これまでも各事業会社の課題や要望に対して技術的支援を行ってきたが、今後は「より連携を強めていく」(花田社長)方針だ。このほどものづくりラボでは、STSが乳化工攪拌装置を手がけるみづほ工業(大阪市西成区)の卓上型攪拌機を用いた実験・解析を始めた。それらのデータ

サノヤスHDは30年度に、造船事業切り離し前の売上高水準500億円(23年度233億円)を掲げる。新製品開発などは重点施策の一つで、ものづくりラボを起点にイノベーションの好循環を実現できるかが問われる。